

# RSNの西村代表がブログで胸中明かす

## 「開設当初は誤解や非難受け、業界からも煙たい目で見られ、かなりつらい思いした」

全日遊連の第三者団体「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポートネットワーク」(RSN、西村直之代表)は7月29日、ホームページの中にブログを開設した。ホームページ自体も8月31日にアドレスを変更した。ブログの中で西村代表は「10月頃にはNPO法人として新たなスタートを切る予定です」と前向きな姿勢をみせている(11月にずれ込む見込み)。しかし一方では、開設当初から今日まで4年を振り返り、その心境を「医療や福祉業界など外からはパチンコ業界の支援を受けているため様々な誤解や非難を受け、パチンコ・スロット業界の中からも煙たい目で見られ、かなりつらい思いをしました」とつづり、記者会見や全日遊連の挨拶、月一回発行の機関誌「さくら通信」では決してみせなかった胸中をうかがわせる。

4年の活動は長い。たとえばブログの中で西村代表の「ホールの経営者の考え方も様々です」という言葉の言外から、これまで嫌な思いもたくさんしてきたであろうことは容易に想像がつく。4年もの間、様々な障害を乗り越えてきたRSNの存在は業界にとつて大変貴重だと言えよう。

RSNはホール駐車場の子供の車内放置事故死をきっかけに4年前に全日遊連が設立したもので、そうした経緯から、西村代表は8月27日に秋田県で発生した乳児の車内放置死についても書いています。以下はブログの抜粋。あとは直接ホームページで見てください。  
(<http://rsn-sakura.jp/>)



RSNの西村代表

### 2009年7月29日 代表のつぶやき(その1)

ばちんこ依存問題の相談機関を開設して4年目。事務所の開設から丸4年が経ちます。立ち上げの準備から今日まで、まあ色々大変な思いをしながらやってこれています。現在は、NPO法人化の準備をすすめており、10月頃にはNPO法人として新たなスタートを切る予定です。  
まだまだ何もかもが手探りの状態で、試行錯誤の連続です。パチン

コのこと良からぬと思う方、心から愛されている方、立場は様々あるでしょうが、どうか長い目で私たちの活動を見守って応援してください。

### 2009年8月5日 代表のつぶやき(その2)

台風が接近しています。ここ数年は、気候変動のせいか、沖縄本島にあまり大きな台風が来ていません。太平洋と東シナ海(日本海)ではありませんが、同時に見える高台にあるRSNの事務所は、台風が直撃するとシャッターをあげることに危険でできなくなりますが、平日なのに電話相談がつかない時には、「もしや台風か?」とインターネットで天気予報を見てください。全国紙の天気図には、沖縄やその南にある台風はまず書いてありませんので…。

多い年には、風速40mクラスが5〜6個も直撃しますので、いつ来るか分からぬ台風への対策に頭を悩ます毎日です。南の島ならではの悩み事をつぶやいてみました。

### 2009年8月27日 代表のつぶやき(その3)

業界全体の方向が見えなくて、最近パチンコ・パチスロが信用できない

い…このコメントをいただきました。この活動を始めて4年になりました。

全日遊連というパチンコホール団体の支援を受けて活動を立ち上げ運営していますが、ホールの経営者の考え方も様々ですし、他のパチンコ・スロット関連団体や機器メーカーの間でもまだまだ問題に対するスタンスが大きく異なっているのが実情です。

それでも、私たちの活動もその一助となっていると思いますが、少しずつですがパチンコ・スロットユーザーへの過度のリスク負担を起さないことの必要性に気づき、賛同していただける関係者の方が増えてきています。

開設当初(今もですが…)は、医療や福祉業界など外からはパチンコ業界の支援を受けているため様々な誤解や非難を受け、パチンコ・スロット業界の中からも煙たい目で見られ、かなりつらい思いをしました。

一方で、真剣にこの問題を悩んで何とかしたいと考える業界関係者の方々や、活動を取り上げ続けてくれる幾つかのパチンコ業界誌の方々(新聞やマスメディアよりはるか)にこの問題に詳しく、正確な記事を書いていただけます、活動を応援してくれる様々な方々と出会い、励まされてきています。

パチンコ・パチスロがユーザーの皆様にも社会全体にとつても優しい娯楽であるよう、これからも取り

組んでいきたいと思っています。

### 2009年9月3日

秋田県での乳児車内放置死について(相談機関として思うこと)

また今年も痛ましい事件が起つてしまいました。昨年4月の鹿児島での車内放置死(当時1歳7ヶ月)の後、全国のホールは事故防止の取組みを強化し、努力してきたのは確かです。リカバリーサポート・ネットワークは、車内放置事故を防止したいというホール関係者の取組みの一環として誕生しました。それゆえ、各ホールがこの問題に対して真剣に取組んでいる現状も肌で感じてきました。

しかし、防ぎきれずまたも小さな命が失われてしまいました。小さな命だけでなく、若い一人の女性の将来、家族の未来も同時に失われてしまいました。ホールの対策だけでは、限界があることは明白です。また、今回のようにパチンコにのめりこんでいる状況に至っていない方では、私たちに相談してやることもありません。

小さな命を救うには、もう少し踏み込んだ対策が必要です。加害者となつてしまった母親を責めても再発防止にはなりません。何が足りなかったのか、何が必要なのか、そして何ができるのか、この重たい課題について思うところをこれから何度かに分けて書いていきたいと思えます。

RSNスタッフ一同、この事件で亡くなった男の子のご冥福を、心からお祈り申し上げます。